

はじめに

この水害ハザードマップは、

- ・水害時の避難行動、避難情報の種別などを確認できる「**防災学習情報**」
- ・河川の洪水による浸水想定区域を示す「**洪水ハザードマップ(想定最大規模)**」
- ・水路や下水道から溢れて起こる浸水の想定区域を示す「**内水ハザードマップ**」
- ・防災関係機関や指定緊急避難場所の一覧など情報を記載した「**避難活用情報**」

をひとつの冊子にまとめたものです。

本紙に掲載する洪水ハザードマップは、国土交通省の作成した「荒川水系荒川及び入間川流域洪水浸水想定区域図(想定最大規模)」、埼玉県作成した「荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(想定最大規模)」および「荒川水系入間川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(想定最大規模)」の洪水浸水想定区域を重ね合わせ、各地点の最大の浸水深を示したものです。個別の洪水浸水想定区域を確認したい場合は、小江戸川越マップや川越市ホームページなどをご覧ください。

近年、想定を超える大雨により土砂災害や浸水の被害が多発しています。あらかじめ危険な箇所や避難場所などをご確認いただき、災害時に皆さんが安全かつ速やかに避難できるようご利用ください。

目次

防災学習情報

- はじめに/水害ハザードマップの活用方法 P.1
- 小江戸川越マップの活用方法/川越市ホームページの活用 P.2
- 風水害の知識 P.3
- 避難時の心得 P.5
- 立退き避難と屋内安全確保とは/浸水継続時間とは P.7
- 浸水継続時間図 P.8
- 避難行動判定フロー P.9
- マイ・タイムラインを作ってみよう P.10
- 情報の入手 P.11
- 自主防災組織/家庭でできる浸水対策 P.12
- ハザードマップの見方 P.13

洪水ハザードマップ(想定最大規模) P.15

内水ハザードマップ P.37

避難活用情報

- 土砂災害ハザードマップ P.59
- 被災した際に受けられる各種制度/住まいが被害を受けたら... P.60
- 防災関係機関一覧 P.61
- 水害時指定緊急避難場所一覧 P.62
- わが家の防災メモ/非常持出品 裏表紙

水害ハザードマップの活用方法

①家の位置を確認しましょう。

あなたの家の場所をハザードマップに書き込みましょう。



②家の周りの災害の危険性を確認しましょう。

あなたの家は浸水が想定されている区域ですか？



③避難場所を確認しましょう。

最寄りの避難場所や次に近い避難場所までの距離を確認しましょう。



④避難経路を考えてみましょう。

災害の危険性や狭い道路を避け、安全な避難経路を確認しましょう。また、小江戸川越マップで最短ルートや距離を比べてみましょう。



⑤実際に避難場所まで歩いてみましょう。

地図で選択した避難経路が安全かどうか、その他の避難経路についても確認しましょう。



⑥災害や避難について、話し合ってみましょう。

あなたの家だけでなく、家族の職場やよく行く場所などについても避難場所や危険性を確認しましょう。



小江戸川越マップの活用方法

「小江戸川越マップ」とは、川越市の地域情報や行政情報などを地図上に表示して公開・提供するWEBサイトです。「小江戸川越マップ」では、都市計画情報や施設情報と合わせて洪水ハザードマップも掲載されています。「小江戸川越マップ」の洪水ハザードマップでは、好きな場所を拡大して見ることができ、ご自宅や公共施設などと洪水浸水想定区域の関係を紙面よりも詳しく見ることができます。



さらに、図上で示した場所の浸水深の区分の検索や、最寄りの避難場所までの最短ルートの検索、距離などを測ることで自分だけの洪水リスク情報を得ることができます。また、地図上にメモやルートを作図して、自分だけのハザードマップを作ってみましょう。

パソコンだけでなくスマートフォンからも利用できますので、水害ハザードマップとあわせていざというときに備えてご利用ください。

小江戸川越マップ:

<http://www2.wagmap.jp/kawagoe/G0303A>



【測る・描く】
距離や面積を調べたり、地図上に自由に絵や記号を書き込むことができます。

【経路検索】
指定の場所から目的地の最短ルートと距離を調べることができます。

【印刷】
自分だけのハザードマップを印刷することができます。

【詳細情報】
浸水想定区域上をクリックすると、その場所の浸水深の区分が分かります。

【地図の移動】
地図を移動させたり、拡大・縮小することができます。

川越市ホームページの活用



●水害ハザードマップのページ

川越市水害ハザードマップは川越市ホームページでも公開しています。川越市ホームページでは、最新のハザードマップをPDFファイルでダウンロードすることができます。事前にご自身のパソコンなどにダウンロードしておけば、災害時の通信回線の障害やアクセス集中の場合でもハザードマップを確認することができます。また、国や県が作成した各流域の浸水想定区域図や浸水継続時間図についても、水害ハザードマップのページで紹介しています。



https://www.city.kawagoe.saitama.jp/anzen_anshin/bousai_jouhou/hazardmap/kasen120190927.html



●川越市防災情報のページ

川越市では最新の防災情報をホームページを通じて提供しています。水害だけでなく、地震に関する情報や災害対策に関する情報をまとめていますので、ぜひご覧ください。



https://www.city.kawagoe.saitama.jp/anzen_anshin/bousai_jouhou/index.html

風水害の知識

洪水や内水氾濫が発生すると、あふれた水は道路などを流れて、低地部が浸水します。流れがあると少しの深さの水位でも、そこを歩くことができなくなります。また、水に浸かっている場所では地面が見えなくなり、水路やマンホールのふたが外れている場所などでは非常に危険です。安全を確認しながら落ち着いて行動しましょう。

気象情報と雨の降り方に注意しましょう

特に必要な気象情報

大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合
洪水注意報	洪水によって災害が起こるおそれがあると予想される場合
大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
洪水警報	洪水によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
記録的短時間大雨情報	数年に一度の猛烈な雨が観測された場合(概ね1時間雨量100mm)
顕著な大雨に関する情報	線状降水帯と考えられる雨域が確認され、かつ土砂災害や洪水災害の危険度が急激に高まってきた場合
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量(mm)	10mm以上 20mm未満	20mm以上 30mm未満	30mm以上 50mm未満	50mm以上 80mm未満	80mm以上
災害発生状況	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

避難情報を聞いたら逃げましょう

避難情報

避難に関する情報はテレビ、ラジオなどを通じて市民の皆さんに伝えられます

災害時要配慮者※は避難

警戒レベル3 高齢者等避難

避難の準備を整え、テレビやラジオなどの情報に十分注意してください。災害時要配慮者※の方は避難してください。

避難してください!

警戒レベル4 避難指示

全員が危険な場所から速やかに安全な場所へ避難してください。

命を守る行動をとってください!

警戒レベル5 緊急安全確保

危険が迫っています。命を守るための最善の行動をとってください。

※高齢者や乳幼児、障がい者、傷病者、外国人、妊産婦など、災害発生時に何らかの支援が必要な人たちを「災害時要配慮者」と言います。

次の点に注意し安全な避難を心がけましょう

避難時の危険箇所

路上には、いろいろな危険が潜んでいます。日頃から注意すべき場所を確認しておきましょう。

1 水路の周辺

水路にはガードレールの柵がない場合があります。浸水時には、水路と道路の境目がわからず誤って流される危険があります。



2 土砂災害危険箇所

「崖」は、大雨が降ると崩れるおそれがあるため、大雨時に近づくのは危険です。また「崖」の近くに住宅がある場合には、早めの避難を心がけましょう。

3 アンダーパス(立体交差)

道路や鉄道の下を通るアンダーパスには水がたまり通行ができなくなります。近年、集中豪雨(ゲリラ豪雨)の多発により、アンダーパスが冠水することで車両が水没するなどの重大な事故が多発しています。道路が冠水している状況を見つけた場合には、通行せず、迂回するなどの危険回避を最優先で行ってください。



4 低いところ(窪地)

アンダーパスのほか、周辺よりも低くなっている道路も水がたまり通行できなくなります。

5 マンホールに注意

降雨量が多くなるとマンホールのふたが外れたりすることがあります。また、道路に雨水がたまったときに、マンホールや側溝のふたを開けて水を流すことは、非常に危険です。

6 地下施設の浸水に注意

浸水すると水が一気に地下施設へ流れ込んだり、水の圧力でドアが開かなくなることがあります。また、地下にいると屋外の状況がわからなくなるので、注意しましょう。

7 夜の避難

夜などの暗い中での避難は、日中よりも水路やマンホールの場所がわかりづらくなります。危険を感じた場合は、無理をせず、建物の2階以上に避難しましょう。



河川の水位と避難情報

川崎市に洪水を及ぼす危険があり、洪水予報や水防警報を行う主な河川は、荒川、入間川、小畔川、新河岸川です。各河川の水位情報の値と水位情報の予測を参考に、市から「高齢者等避難」「避難指示」「緊急安全確保」の避難の呼びかけを行いますので、安全かつ速やかに避難してください。また、日頃から水位情報のあらかず意味を理解しておきましょう。⇒11ページ 水位・土砂災害の情報を参照

基準水位(2022年4月現在)

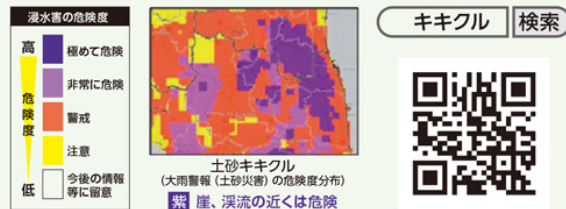
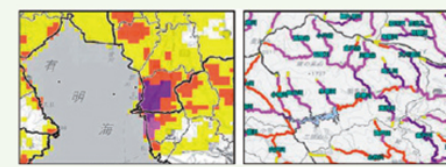
河川	荒川	入間川	小畔川	入間川	新河岸川
堤防	熊谷(熊谷市)	治水橋(さいたま市)	小ヶ谷(川崎市)	菅間(川崎市)	八幡橋(川崎市)
氾濫危険水位	5:50	12:70	3:30	12:00	4:20
避難判断水位	5.00	12.20	2.90	11.50	3.60
氾濫注意水位	3.50	7.50	2.50	8.00	3.50
水防団待機水位	3.00	7.00	2.00	7.00	3.00
河川敷	49.69	7.48	49.23	7.12	49.10
普通の水	6.00	4.50	48.40	4.50	

出典: 令和4年度荒川上流洪水対策計画書 令和4年度埼玉水防計画

洪水の危険度	洪水予報	市の発令する避難情報と行動	市民の皆さんが取る行動
レベル5	氾濫発生情報	氾濫が発生したときに発表される情報	逃げ遅れた市民を救助し、新たに氾濫が及ぶ区域の市民の避難誘導や救援活動を行います。「緊急安全確保」を発令します。
レベル4	氾濫危険情報	氾濫危険水位に達したときに発表される情報	速やかに避難先に避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、住んでいる場所より安全な場所に避難しましょう。
レベル3	氾濫警戒情報	一定時間後に、氾濫危険水位に達すると見込まれるとき、あるいは、避難判断水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれるときに発表される情報	避難に時間を要する人(高齢者、障がい者、乳幼児等)とその支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。
レベル2	洪水注意報(氾濫注意情報)	氾濫注意水位に達し、さらに水位の上昇が見込まれるときに発表される情報	水防団出動の判断をします。気象庁などの発表やテレビ、ラジオ、ホームページなどから積極的に情報を収集し、いざという時に備えましょう。
レベル1	発表なし		

危険度分布(キキクル)で、お住まいの地域の状況を確認しましょう。

気象庁から市町村単位の警戒レベル情報が出されたら、お住まいの地域の状況が詳細にわかる情報(危険度分布)を確認してください。気象庁ホームページでは地図で危険度分布情報を発信しており、紫色は危険度が高いことを示しています。



<https://www.jma.go.jp/bosai/risk>

避難時の心得

●避難時の心得

正確な情報収集と自主避難

テレビ、ラジオで最新の情報、災害情報、避難情報を収集しましょう。雨の降り方に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。また、テレビのデータ放送も活用しましょう。

避難前の安全確認

避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓をしめ、避難先を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。

水面下の危険に注意

浸水した場所では、側溝やマンホールのふたが外れている危険があります。長い棒を杖代わりにして、安全を確認しながら歩きましょう。

POINT 逃げ遅れたら高い建物に直ぐ避難

洪水時に身に危険が迫っているが、安全な場所まで避難する時間がない場合、自宅や隣接建物の2階以上へ緊急的に避難する垂直避難は有効な避難方法と言えます。ただし、浸水の深さが建物の上層階を超えると想定される場合、堤防の近くで氾濫流によって家屋の流出が想定される場合などは、屋内で退避していても命に危険が及びますので、立退き避難が必要です。

避難の呼びかけに注意

市や消防団から避難の呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。「大丈夫だろう」と軽く考えずに避難することが大切です。

速やかに避難

避難指示などは、危険が迫ったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には市や消防団などの指示に従いましょう。

動きやすい服装、2人以上での避難

避難するときは、できるだけ2人以上での行動を心がけましょう。ご近所にも声をかけ協力して避難しましょう。運動靴を履き、動きやすい服装にしましょう。サンダルは禁物です。

歩ける水の深さに注意

大人が歩ける深さは、約50cmが目安です。水の流れているときは、50cm以下でも歩行は危険です。水深が腰まである場合は高いところで救助を待ちましょう。

車での避難はしない

冠水した道路では車が水に浸かり、動かなくなることがありますので、車での移動は大変危険です。また、道路をふさいで救命活動の妨げになることがありますので、車での避難はやめましょう。

要配慮者への地域の支援が必要です

高齢者や乳幼児・障がい者などは、災害が発生した場合、情報収集や避難行動・避難生活などで困難な状況に置かれることが多く、災害時に一層の支援が必要となります。要配慮者自身及びその家族の方々には、地域との交流を保つように心がけ、いざという時の救助を依頼しておきましょう。また、市民の皆さんは要配慮者の方が遠慮なく援助を申し出られるように、普段から働きかけや交流を持つよう心がけましょう。

肢体が不自由な人

支援する人は
●階段では、2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。

耳が不自由な人

支援する人は
●口をハッキリと開け、相手にわかりやすいように話す。
●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

目が不自由な人

支援する人は
●災害時には、声をかけ情報を伝える。
●誘導する場合は、支援者のひじのあたりを軽く持ってもらい半歩前をゆっくり歩く。

外国人

支援する人は
●身振りや手振りで話しかけ、孤立しないようにする。

●分散避難について

豪雨や河川の氾濫など、災害による危険が差し迫っている場合は、安全な場所や避難場所に早めに避難することが重要です。しかし昨今においては、避難先などで人が密集すると、新型コロナウイルスなど感染症に感染する心配もあります。そこで重要になるのが、あらかじめ別の避難先を考えておく「分散避難」です。安全な場所に住んでいる親戚や知人など、頼れる人がいればそこに避難することも検討しましょう。

行政が指定した避難場所への立退き避難

在宅避難

安全な場所での車中泊・テント泊

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。

どう行動するか 普段から決めておきましょう。

コロナ禍における避難行動

●避難場所での感染症拡大を防ぐために

十分な換気の実施、スペースの確保

避難場所内は、十分な換気に努めるとともに、避難者が十分なスペースを確保できるよう留意します。通常時よりも広いスペースが必要となりますので、ご協力をお願いします。

マスクの着用、必要な物の持参

感染症の拡大防止のため、避難場所内ではマスクの着用をお願いします。その他、市の備蓄品には限りがありますので、できるだけ必要なものはご自身でご用意ください。

こまめな消毒

ほとんどの場所が共有スペースとなるため、人の手が触れる機会が多くなります。自分の生活スペースに戻る前に必ず消毒をしましょう。

体調が悪くなったら避難場所係員に相談

体調がすぐれない人用の生活スペースを設けています。周囲に影響が出る前に、すぐに避難場所係員に相談してください。

●避難時共同生活のルール

避難場所では係員の指示に従ってください。

避難場所から出るときには、係員に行く先や用件などを必ず伝えるようにしてください。

避難場所では水害に関する情報を随時お知らせしますので、風評に惑わされないようにしてください。

立退き避難と屋内安全確保とは

避難は危険性のない場所へ移動する「立退き避難(水平避難)」が原則です。ただし、道路の冠水や降雨の状況などにより、移動することが困難だと判断される場合は、近隣の安全な場所(頑丈で高い建物や標高の高い場所)や「屋内安全確保(垂直避難)」により安全を確保してください。

立退き避難(水平避難)

その場を立退き、近隣の少しでも安全な場所や避難場所に避難すること



注意 大雨や強風、夜間といった状況により、移動することがかえって危険になってしまうことに留意する。

屋内安全確保(垂直避難)

建物の2階以上に避難すること



注意 浸水が長時間継続した場合、取り残されてしまう危険性があることに留意する。

3つの条件が確認できれば 浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない

(入っていると…)



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水が引くまで我慢でき、飲料水・食料の備えが十分

(十分じゃないと…)

飲料水、食料、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります



浸水継続時間とは

ひとたび洪水が発生してから、水が引くまでの時間は、降雨量や地形などによって異なります。浸水継続時間とは、「浸水の深さが50cm以上になってから、50cmを下回るまでの時間」を示したもので、屋外への避難が困難となり孤立する可能性を確認する目安となるものです。

浸水継続時間が長い地域では、立退き避難を行わなかった場合、ライフラインが絶たれることなどにより避難生活が困難となるおそれがあります。

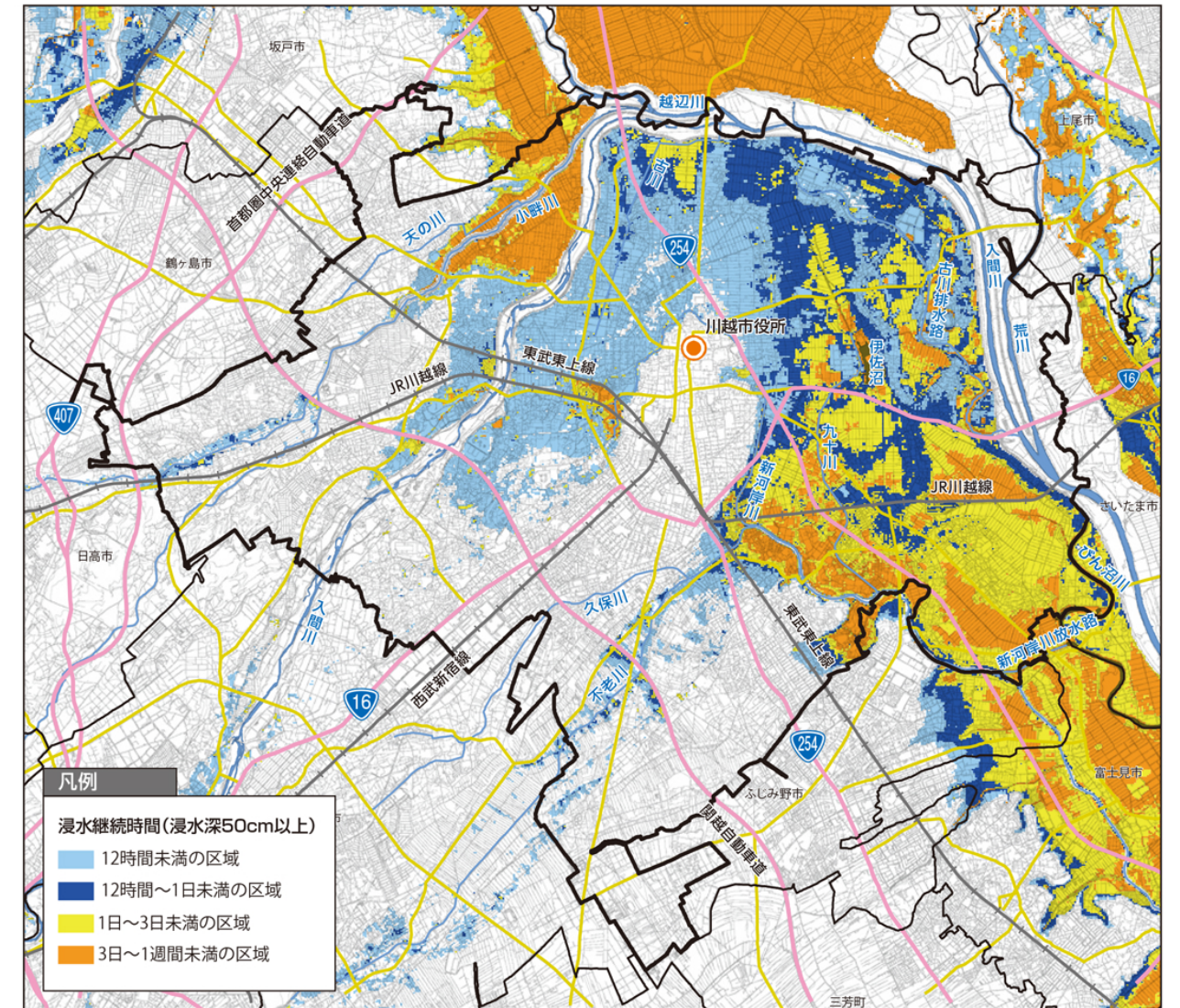


浸水によって孤立が長期化した場合、生活環境の悪化が想定されます。

浸水継続時間図

● 荒川・入間川・新河岸川流域浸水継続時間図

この地図は浸水の深さが50cm以上になってから、50cmを下回るまでの時間の最大値を図化したものです。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用しています。
【測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 3JHs 88】

この浸水継続時間図は、国土交通省の作成した「荒川水系荒川及び入間川流域洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)」、埼玉県作成の「荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(浸水継続時間)」および「荒川水系入間川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(浸水継続時間)」の浸水想定区域を重ね合わせ、各地点の最大の浸水継続時間をとることで最大のリスクを示したものです。

実際の洪水による浸水継続時間が常に想定通りの結果となるわけではありませんが、各自が避難の目安としてください。

■ 「荒川水系荒川及び入間川流域洪水浸水想定区域図(浸水継続時間)」について

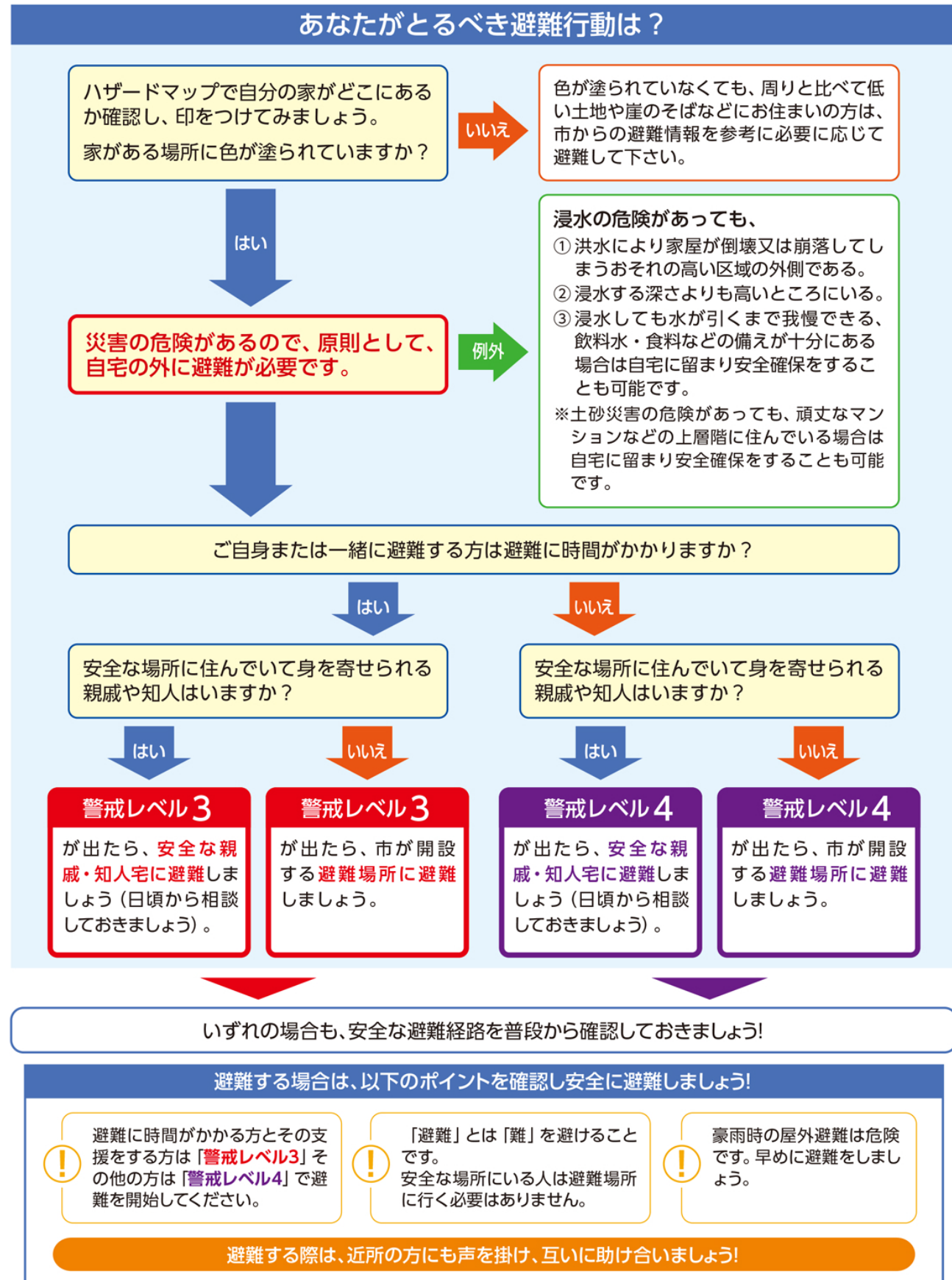
・指定の前提となる降雨(想定最大規模降雨) 荒川流域の3日間総雨量 632mm、入間川流域の3日間総雨量 740mm

■ 「荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(浸水継続時間)」および「荒川水系入間川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図(浸水継続時間)」について

・算出の前提となる降雨(想定最大規模降雨) 新河岸川流域の2日間総雨量 746mm、入間川流域の3日間総雨量 740mm

避難行動判定フロー

実際に災害が近づくと、なかなか決断がつかずに避難のタイミングを逃すケースが多くあります。「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクといざという時にとるべき行動を平時から確認しましょう。



マイ・タイムラインを作ってみよう

マイ・タイムラインとは自分の行動を時系列に整理した計画表であり、台風の接近などによって河川の水位が上昇した時を想定して、自分自身がとる防災行動を時系列的に整理した防災計画です。あらかじめ災害時の行動をシミュレーションしておくことで、急な判断が迫られる災害時に、自分のすべきことの確認や、避難判断のサポートツールとして役立てることができます。

●自らつくるマイ・タイムライン作成の手引き

川越市では、市民の皆さんがマイ・タイムラインを作成するためのツールとして、「自らつくるマイ・タイムライン作成の手引き」を作成しました。詳しくは川越市ホームページからファイルをダウンロードしていただき、各ご家庭等でご活用ください。



URL: https://www.city.kawagoe.saitama.jp/anzen_anshin/bousai_jouhou/saigaitaisaku/mytimeline.html

市・町・村	地区	家	マイ・タイムライン	作成年月日	年	月	日	チェックシート
<p>5日前</p> <p>国・県・市・町・村から発信される情報 黒：気象・水象情報 青：河川管理者 緑：市町村</p> <p>○台風予報 ○台風に関する都道府県気象情報（随時）</p> <p>2日前</p> <p>◇大雨注意報・洪水注意報 ○台風に関する今後の見通し</p> <p>1日前</p> <p>◇大雨警報・洪水警報（上流域での大雨特別警報） 水防団待機水位到達 氾濫注意水位到達</p> <p>半日前</p> <p>◇暴風警報 避難判断水位到達 氾濫警戒情報発表 高齢者等避難を発令 氾濫危険水位到達 避難指示を発令</p> <p>0時間</p> <p>氾濫が発生 氾濫発生情報発表 緊急連絡メール（氾濫が発生した情報）</p>	<p>「台風が発生」してから「川の水位が上がる」するまで</p> <p>台風が発生 天気予報で台風ができてきてるよ。 まだ雨や風は強くないね。 台風情報です</p> <p>台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる 雨や風が強くなると、お出かけは大変だね。</p> <p>雨が集まって、川の水がだんだん増える 自分がいるところで降ってなくても上流で雨が降れば川の水は増えてくるよ。</p> <p>激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる このまま増えたら、川の水があふれるかも。</p> <p>川の水がいっぱいであふれそう！ もうざりざり。川の水があふれる前に安全なところへ逃げなきゃ！ 定元に注意だよ！</p> <p>川の水位が急激に上がって、街中が水びたし。こうなると動けないぞ！</p>	<p>主なそなえ</p> <p>例を参考に考えてみよう！ オリジナルの行動も書き足そう！</p>	<p>チェックシート</p> <p>①住んでいる場所の水害危険性チェック</p> <p>①-1 住んでいる場所の浸水深は？ 0.5m未満 0.5~3m 3~5m 5~10m未満</p> <p>①-2 住んでいる場所の浸水継続時間は？ 12時間未満 12時間~1日 1日~3日 3日~1週間 1週間~2週間 2週間以上</p> <p>①-3 住んでいる場所は家屋倒壊等氾濫想定区域にかかっていますか？ <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p>②家庭の状況チェック</p> <p>避難に支援が必要な人（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など） <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有</p> <p>車 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有</p> <p>ペット <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有</p> <p>持病薬 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有</p> <p>③避難先のチェック</p> <p>避難する場所 <input type="checkbox"/> 洪水ハザードマップの避難所 [] (移動時間: 約 時間)</p> <p><input type="checkbox"/> 浸水しない親戚・知人の家 [] (移動時間: 約 時間)</p> <p><input type="checkbox"/> その他 (近くの浸水しない場所など) [] (移動時間: 約 時間)</p>					

川越市マイ・タイムラインの手引きより

情報の入手

ホームページや携帯電話による防災情報の入手

避難の情報

- 避難指示等の避難情報
- 避難場所開設情報
- 各種災害情報



川越市役所ホームページ
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

川越市防災情報メール配信サービス ※要事前登録
 川越市の災害情報を、登録したパソコンや携帯電話等にメールで配信します。防災行政無線等では、情報伝達できない遠隔地(勤務地等)にいる市民や、屋内にいる市民及び聴覚障がい者に対し、より確実に災害情報を提供できるようにするためのメール配信サービスを行っております。

配信内容：避難指示等の避難情報、避難場所開設状況、応急復旧状況等

登録方法



●パソコンの場合
 以下の登録ページにアクセスし、利用規約に同意の上、登録画面に沿って登録を行ってください。なお、携帯電話のメールアドレスもパソコンから登録することができます。
<https://service.sugumail.com/kawagoe/member/>

●スマートフォン・携帯電話の場合
 以下の登録用アドレスに空メールを送るか左記の二次元バーコードから登録を行ってください。
 仮登録用メールアドレス ▶ kawagoe_ml@sg-m.jp
 ※登録料・情報料は無料ですが、インターネット接続料やEメールの受信などにかかる費用は、利用者の負担になります。

防災行政無線電話応答サービス▶電話：049-229-3450

- 川越市の防災行政無線で放送された内容を電話で確認できます。
- 放送終了直後から利用できます。
- 放送された内容は、24時間経過すると再生できません

水位・土砂災害の情報

- 雨量情報
- 水位情報
- ダム情報
- 洪水予報など
- 水防警報
- ライブカメラ



国土交通省
 「川の防災情報」
<https://www.river.go.jp/>



埼玉県
 「川の防災情報」
<http://suibo.saitama-river.info/saitama/servlet/Gamen30Servlet>



埼玉県
 水防情報システム
<http://suibo-mt.saitama-river.info/standard/topMenu>

川の防災情報

埼玉県 川の防災情報

埼玉県 水防情報システム



埼玉県 川の防災情報メール
<http://www.pref.saitama.lg.jp/a1007/kawanobousaime-ru.html>
 埼玉県 川の防災情報メール

選択した地域の河川氾濫注意情報や土砂災害警戒情報等をメール配信します。

配信する情報

- 緊急のお知らせ
 埼玉県から緊急のお知らせを配信します。(災害情報、避難場所開設状況等)
- 河川水位情報
 埼玉県が管理する河川水位が基準値を超過した場合にメール送信します。
- 土砂災害警戒情報
 県内に土砂災害警戒情報が発表された場合、又は解除された場合にメール送信します。
- 天気予報
 県内の天気予報を定時(金曜日11時)にメール配信します

気象の情報

- 気象情報・注意報
- 台風・洪水・土砂災害などの防災気象情報



熊谷地方気象台ホームページ
<http://www.jma-net.go.jp/kumagaya/>
 埼玉県 気象台

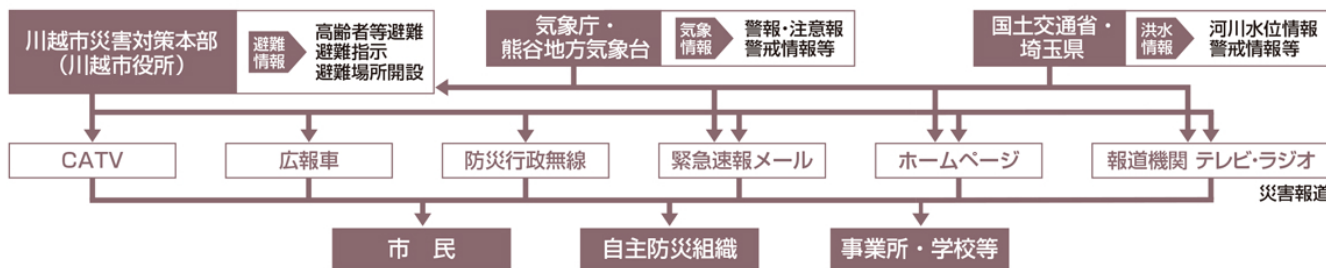
その他の情報

- 想定破堤点・浸水想定シミュレーション



国土交通省
 「地点別浸水シミュレーション検索システム」(浸水ナビ)
<https://suiboumap.gsi.go.jp/>
 浸水ナビ

避難情報の種類と伝達情報



災害時の連絡方法

災害時は、被災地への電話がつながりにくくなります。災害伝言ダイヤル「171」や、災害用伝言板「web171」を利用することにより、自身の安否情報の登録、家族や友人などの安否情報を声や文字により確認することができます。

災害用伝言ダイヤル「171」

- 伝言の録音方法
- 伝言の再生方法
- 171にダイヤル
- ガイダンスが流れます。
- 録音の場合 1
- 再生の場合 2
- ガイダンスが流れます。
- 被災地の方の電話番号
- ※電話番号は市外局番からダイヤルしてください。

災害用伝言板「web171」

- インターネットを利用して被災地の方の安否情報を確認する伝言板です。
- ※接続時に他社の伝言がある場合はリンクが表示されます。
- <https://www.web171.jp>
- または「web171」で検索
- 伝言を登録する被災地の方の電話番号を入力
- 説明に従い登録/確認

※毎月1日及び15日、正月三が日、防災週間(8月30日～9月5日)、防災とボランティア週間(1月15日～21日)には利用体験を実施しています。家族などでぜひともお試しください。

自主防災組織

自主防災組織とは、地域住民が協力・連携し、水害などの災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織のことです。日頃から災害に備えた様々な取り組みを実践するとともに、災害時には、災害による被害を最小限に食い止めるための活動を行います。また、復旧、復興期には、自主防災組織と地域住民が力をあわせて、自分たちのまちの再生に向けた様々な取り組みを行うことが大切です。

平常時の活動

平常時には、防災訓練の実施や防災知識の普及啓発などの活動を通じて、災害に備えます。

自力で避難や移動が困難な方などの確認

避難訓練の実施

地域の防災施設・避難場所の確認

防災知識の普及啓発

地域の安全点検



災害時の活動

災害時には、消火活動や救出活動、避難の誘導をいち早く行います。また、避難所の運営などの活動を行います。

初期消火

救助・救出活動

情報の伝達

避難所の運営

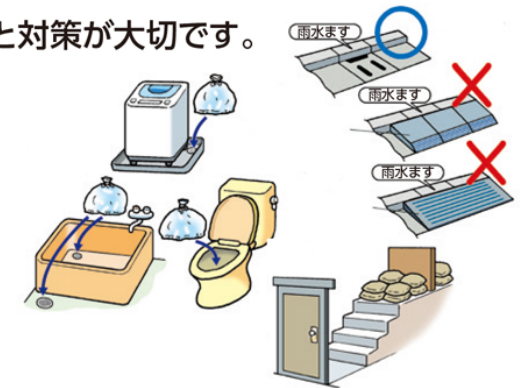
避難の誘導



家庭でできる浸水対策

浸水による被害を最小限にとどめるために、日頃からの備えと対策が大切です。

- 雨水ますの取水口が落ち葉やゴミで詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。雨水ますの清掃にご協力をお願いします。
- 雨水ますやL字側溝の上に車乗り入れブロックなどを置いてしまうと、排水が阻害され、浸水の原因になります。
- 地下室がある建物では、入口に土のうや板などを事前に準備しておきましょう。
- 宅地内に降った雨が地面にしみこむように、ご家庭での雨水貯留・浸透施設の設置にご協力をお願いします。
- 洗濯やお風呂の排水は、雨がやんでからにするなどの配慮をお願いします。



家庭にある物を使って浸水を防ぐ方法の例です。

ごく浅い水深(10cm程度)であれば被害を軽減することができます。

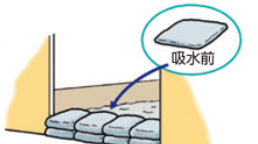
- ごみ袋による簡易水のうによる方法
- ポリタンクなどとレジャーシートによる方法
- 吸水性ゲル水のうによる方法



●止水板による方法



●プランターとレジャーシートによる方法



ハザードマップの見方

●洪水ハザードマップの見方

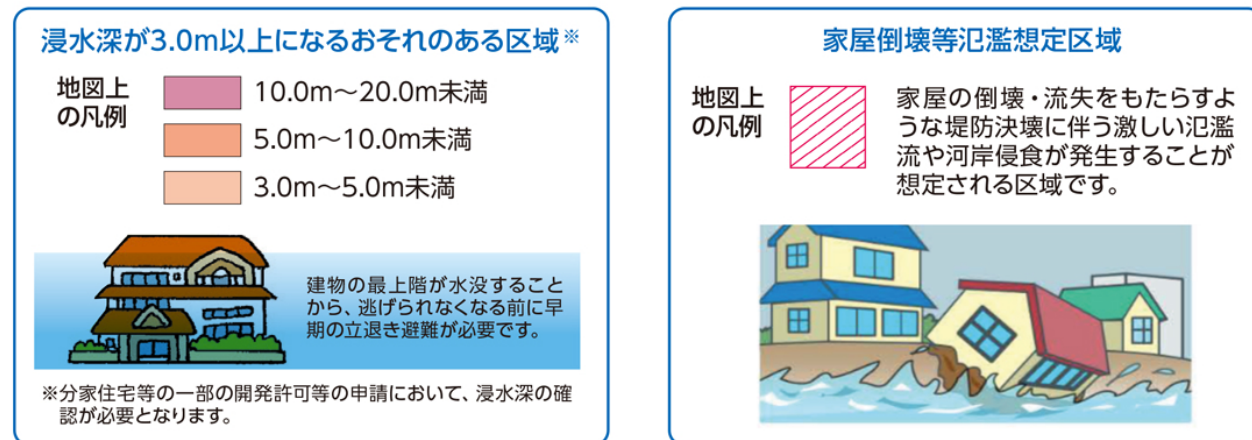


洪水ハザードマップを見る上での注意点

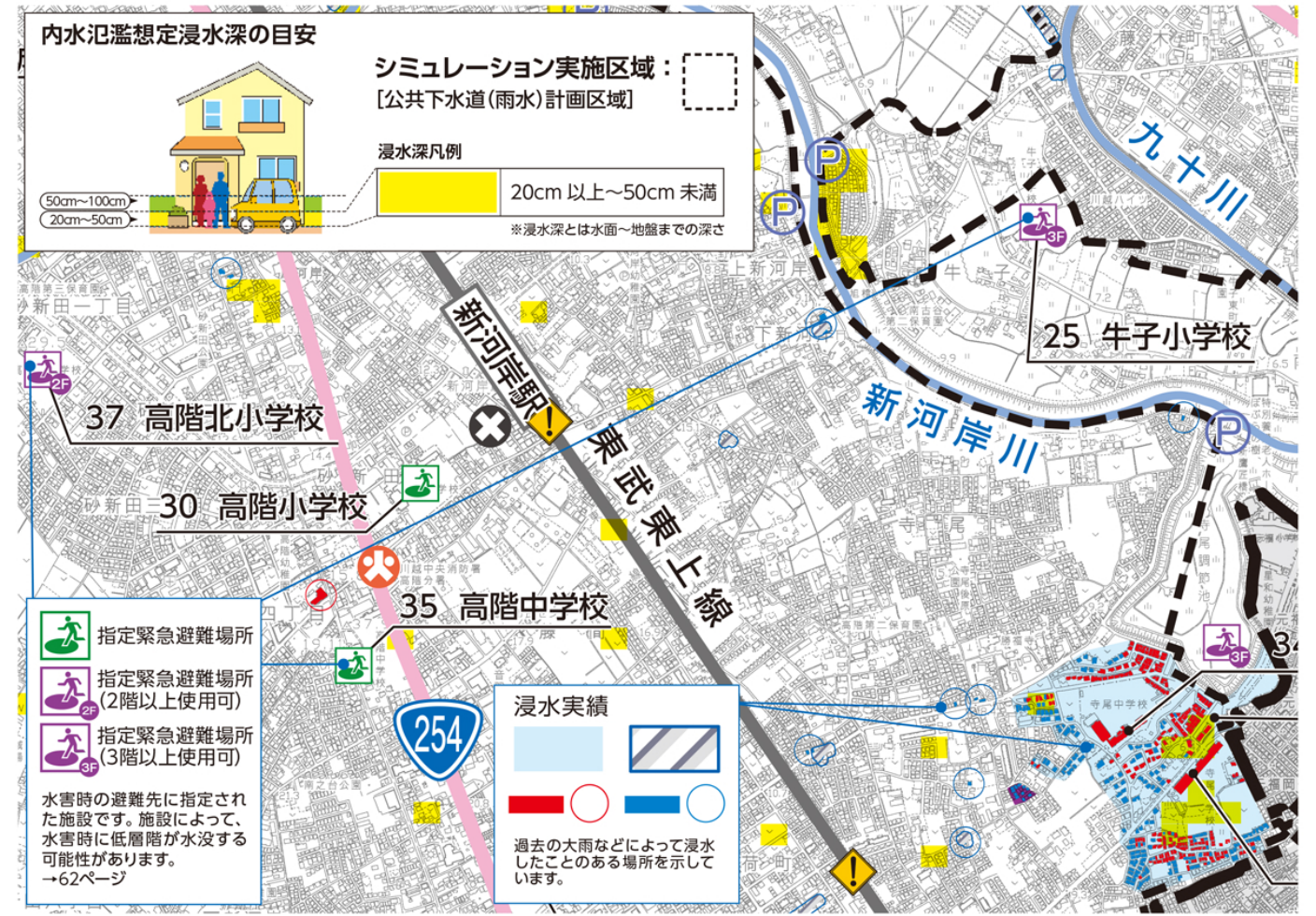
●洪水浸水想定区域は、河川の氾濫解析において平均化された地盤高をもとに計算されており、作成時点以降における土地の改変等を考慮できていないため、実際の地形を反映できていない場合があります。そのため、雨の降り方や土地の状態によっては、実際の浸水範囲や浸水の深さとは異なる場合がありますので、十分に注意してください。

早期の立退き避難が必要な区域

浸水深が3.0m以上になるおそれがある区域、または家屋倒壊等氾濫想定区域に指定されている区域は早期の立退き避難が必要です。高齢者等避難などに従って当該区域から安全な場所に速やかに立退いてください。



●内水ハザードマップの見方



内水ハザードマップを見る上での注意点

●内水ハザードマップは、平成15年8月5日に川越市で観測された集中豪雨を基にした浸水想定図です。作成にあたっては、地形情報を利用したシミュレーションにより作図しており、地形的に低く浸水しやすい場所を示しています。なお、河川から溢れる水は考慮していませんので、これらの河川水位によっては、想定以上の浸水が発生する可能性があります。

●学校の校庭は、校舎や周辺の住宅を浸水から守るために、降雨時に雨水を貯めるよう設計されているところもありますので、避難の際には注意しましょう。

洪水(外水氾濫)と内水氾濫の違い

